



島田 恒 議員



旭市農業の未来とDXによる農家の組織化・活性化について

問 農業DXをどのように位置づけ、どのような姿を目指すしていくのか、市長の考えを伺う。

答 本市の農業は、豊かな自然環境と先人たちのためめぬ努力に支えられて発展してきた。

しかし、農業者の高齢化や労働力不足など、構造的な課題が深刻化している。こうした中、今期から始まった第3期旭市総合戦略においても、デジタル技術の進展を農業分野に生かした地域課題の解決をうたっている。生産性の向上や省力化などを進めながら消費者に評価される価値を生み出す農業DXは、本市農業の持続的な成長を目指すための重要な取り組みである。国や県の支援制度や民間事業者の持つ知見も活用しながら、地域の担い手、農業組織などと連携し、本市の強みである高い生産技術と高品質で多様な品目を有するという特性を生かした農業DXの

推進を図っていく。

問 農業の現場ではデジタル化の進め方が分からないという声も聞こえる。だからこそ、行政側においても、農業のDXを伴走支援できる体制が必要。大学やJA、地元の旭農業高等学校などと連携して、伴走型の支援体制を構築する考えはないか伺う。

答 農業の現場においてICTやDXの活用に関する不安や課題があることは認識している。市としても、農業の持続的発展のためにはデジタル技術の導入を円滑に進めることが重要であると考えている。国や県が実施している支援制度や外部専門家の派遣事業などの活用も視野に入れ、大学やJA、旭農業高等学校などとの連携についても、農業者への伴走支援の体制づくりに向けて、その可能性を調査研究していきたい。

問 モデル地区やモデル農家を定めて、JAや農業団体と連携して意欲ある農家を対象に、農業グループ立ち上げの支援をするなどの考えはあるか伺う。

答 具体的な検討はない。関係機関と意見交換を行いながら、現場のニーズを把握し、農家の自主的な取り組みが円滑に進むよう、支援のあり方を研究していく。

第二中学校通学路の安全対策について

問 西側正門の通りと旧市役所通りとの交差点で、道路を渡れず自転車横並びとなっている状態が何年も続いている。宿大神区では、旭警察署へこの交差点に信号機を設置するよう要望したが、信号機を設置するためには信号を待つスペースを確保できることが条件で、設置は難しいという回答であった。立地的に難しいが、市として当該交差点に信号を待つスペースを確保することはできないか伺う。

答 信号機の設置には他にも交差する車両や自動車などが安全に擦れ違うために必要な道路幅員確保など、多くの条件がある。現時点での設置は難しいので、安全対策について信号機以外の方法も検討していく。

問 この道路を南下すると県道がカーブしている区間に交差する。交差角度が直角でなく左折しようとする反対車線へはみ

出し、危険を感じる。交差部に隅切りを設置することはできないか伺う。

答 隅切りの設置により、当該交差点での安全性が向上すると考えられるので検討を進めたい。

選挙の投票率向上について

問 7月の選挙の投票結果では約42%の方が期日前投票を利用している。そこで、さらに投票しやすいよう利用者の多いおひさまテラスを期日前投票所とすることはできないか伺う。

答 現在4つの期日前投票所は充足している。おひさまテラスへの期日前投票所の設置については配置バランスを含めて十分な検討が必要だが、必要に応じ新たな取り組みを速やかに導入できるよう継続して研究してまいりたい。

問 選挙当日の投票時間を午後6時とした自治体もあるが、本市において投票時間の短縮は考えられるのか伺う。

答 閉鎖時刻の繰上げについて、人の負担軽減などがあげられるので、近隣市町の動向等にも注視しながら、今後慎重に調査したい。



井田 孝 議員

